

独立系有力コイルセンターの根津鋼材(本社・東京都荒川区東日暮里、社長・根津訓光氏)は19日、浦安鉄鋼会館で「第10回NEZ Uグループ社員総会」を開催した。写真。グループ全社の社員が一堂に会するのは2019年以来5年ぶり。各事業部や各本部、グループ会社から総勢154



根津鋼材グループ 長期ビジョン「NX2030」策定

輸送効率向上、コスト・CO₂削減目指す

全社員総会を5年ぶり開催

人が参集し、9月からスタートした新年度(第58期)の基本方針や長期ビジョン「NX2030」をグループ全社員で共有した。

最初に根津社長が登壇し、過去5年間のマーケット環境の変化とともに、青梅事業所(旧関東コイルセンター)の設立、物流部門の強化など根津鋼材グループにおける変化も示した。



今期の計画、中期ビジョンを示す根津社長

冒頭には参加者全員で経営理念を唱和し、一体感を共有



続けて前57期(24年8月期)の状況報告と、中期経営計画(56~58期)の最終年度となる今期について、グループ全体と部門別で基本方針を報告。設備投資は約7億5千万円を予定しており、青梅事業所のレベルアップ更新や加工指示書のAI

50%達成、生産管理業務の

加工指示書の自動化率90%達成、さらに有給休暇取得率や安全対策など各項目の目標値を設定。受注から生産、出荷に至るまでの諸々の作業・管理を一気通貫で自動化する独自システム「N-コネクト」のさらなるブラッシュアップとDXや業務自動化・効率化によるコスト削減、さらに再生可能エネルギーを活用してCO₂削減を目指す。根津鋼材グループとして業績面だけでなく、SDGsへの貢献や人に優しい労働環境の整備、働き方改革やワークライフバランス、BCPの全国に拠点を持つほか、物流子会社の小山運輸と物流拠点(八潮、北上)、さらにシステムソリューション事業部を持つ。

このほか社員総会では営業本部や製造本部など各本部や事業部からも定量的・定性的な目標(予算)や取り組み事例などが発表された。終了後は懇親会を開催。参加者らは5年ぶりの交流で親睦を深め、根津鋼材グループとしての結束、一体感を改めて確認する有意義な機会となった。

同社は1937年(昭12)創業の独立系有力コイルセンター。関東事業部(八潮事業所、浦安事業所、相模原事業所、青梅事業所)、東北事業部(須賀川事業所、長沼事業所、山形営業所)、中部事業部(蓼科事業所)の全国に拠点を持つほか、物流子会社の小山運輸と物流拠点(八潮、北上)、さらにシステムソリューション事業部を持つ。